

高校1年（SGH4期生）コンピテンシー分析

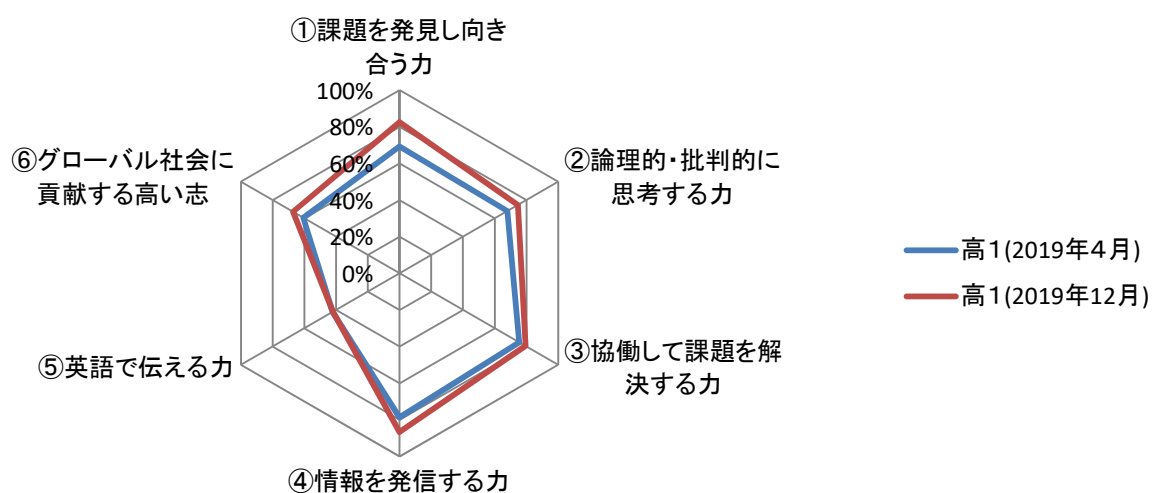
（1）研究開発成果の検証、評価

成果の検証評価には（ア）本校入学時、（イ）高校1年12月の計2回実施した生徒対象アンケートを利用した。このアンケートは、本校が育成したい6つの力に関して39項目の質問があり、その肯定的な回答の割合（非常に当てはまる、かなり当てはまる、まあ当てはまる）の割合をまとめ、生徒らの課題研究及びCTPに関する事業への評価とした。その結果が次の図表1、図表2である。

図表1 2019年度1年（SGH4期生）における6つの力の比較

佐高SGHが伸ばしたい6つの力	高1(2019年4月)	高1(2019年12月)	伸び率
①課題を発見し向き合う力	69%	83%	13%
②論理的・批判的に思考する力	68%	75%	7%
③協働して課題を解決する力	75%	79%	4%
④情報を発信する力	79%	87%	8%
⑤英語で伝える力	42%	42%	0%
⑥グローバル社会に貢献する高い志	61%	67%	7%

図表2 2019年度1年(SGH4期生) 6つの力肯定的な回答の割合

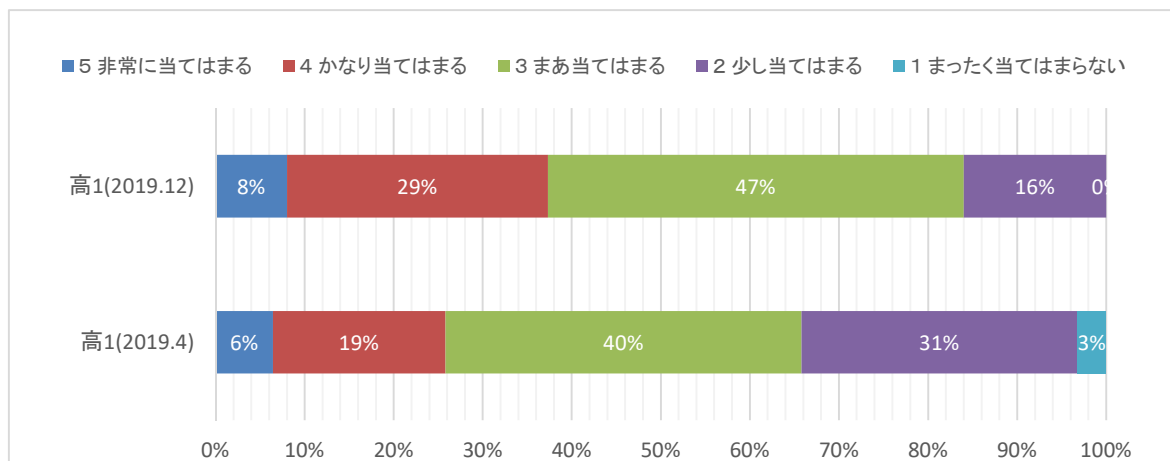


（2）6つの力の評価

1 課題を発見し向き合う力

課題を発見し向き合う力については、本校アンケート質問項目1,2,3,4が該当し、そのうち「非常に当てはまる、かなり当てはまる、まあ当てはまる」と肯定的回答したものを平均した。本校がつけた6つの力のうち1番伸び率が高くなっており、高校1年生で行っている地域課題研究の成果である。また、その中でも設問1「計画を立てて行動することができる」の伸び率が一番高くなっており、18%（66%→84%）の増加となっている。これは課題研究が自分で考えて自分で行動しないと研究が進まないことと関連していると思われるが、フィールドワークの予約を自分で取り実行するなど、多くの生徒が地域課題研究を自主的に行うことができるようになったと言える。

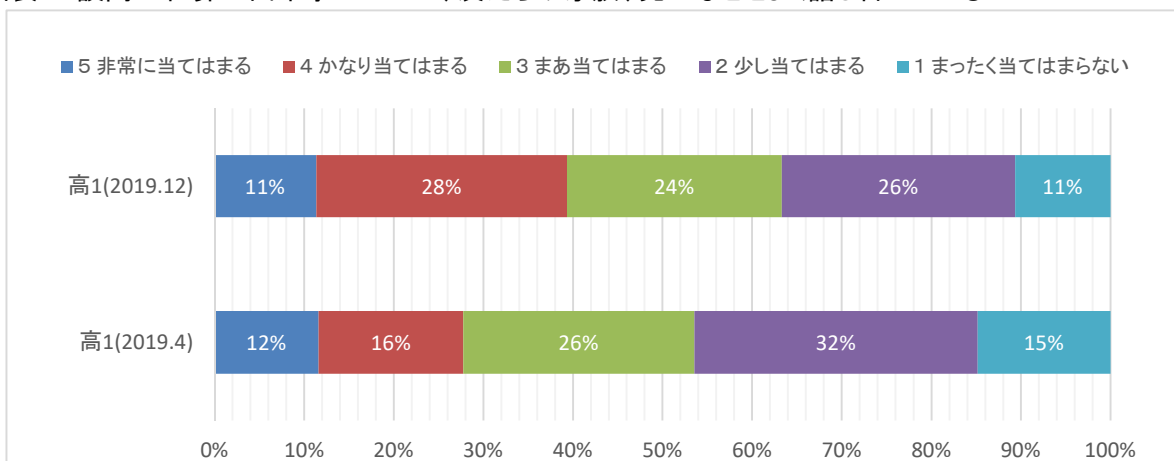
図表3 設問1 計画を立てて行動することができる



2 論理的・批判的に思考する力

論理的・批判的に思考する力に関しては、本校質問項目5,6,7,8が該当し、4月と12月の比較では肯定的回答が7%の伸びを見せている。その項目の中でも「世界の出来事について、友だちや家族、先生などと良くはなしている」に関しては、54%から63%と10%近くの増加を見せた。実際に保護者からも社会情勢などについて子供と話すようになったとの保護者アンケートが寄せられており、課題研究を行う効果の一つと考えられる。

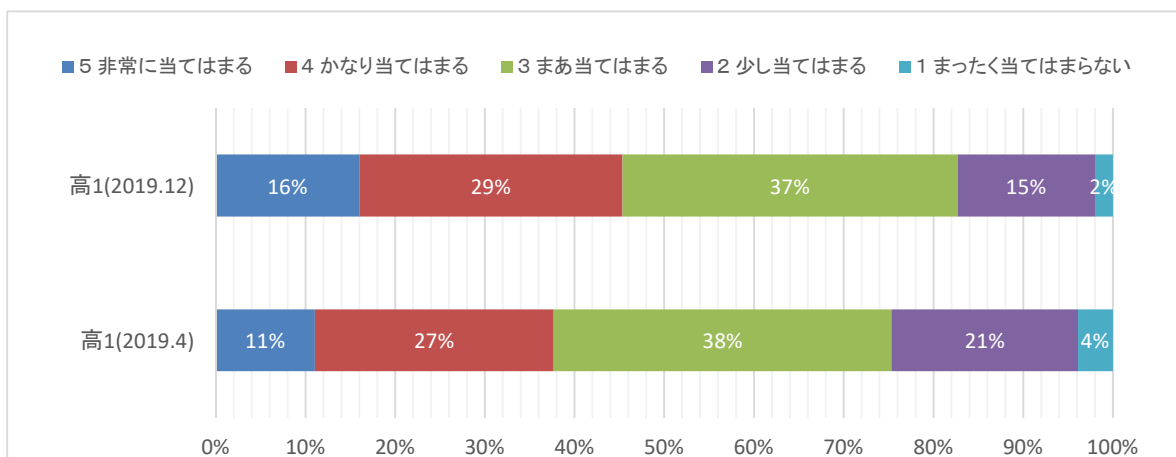
図表4 設問5 世界の出来事について、友だちや家族、先生などとよく話し合っている



3 協働して課題を解決する力

協働して課題を解決する力に関しては、本校質問項目21,22,23,24が該当し、4月と12月の比較では肯定的回答が4%増加した。項目別にみると、設問23「自分の役割を理解し、果たすことができる」は、4月時点から90%と高い割合を示し、12月でも91%とさほど変わらなかったが、設問24「自分と異なる多様な人々と効果的にしごとができる」では、4月から12月の変化が、75%から83%へと大きく増加した。これは、本校の課題研究が長期のグループ研究となっており、互いに協力して進めることを学んでいるからと思われる。このことに関しては、これまでの経験から最初のオリエンテーションに協働作業を円滑に行う指導をしており、さらにグループでの研究時にも担当者から他者との協力を促している成果と言えよう。

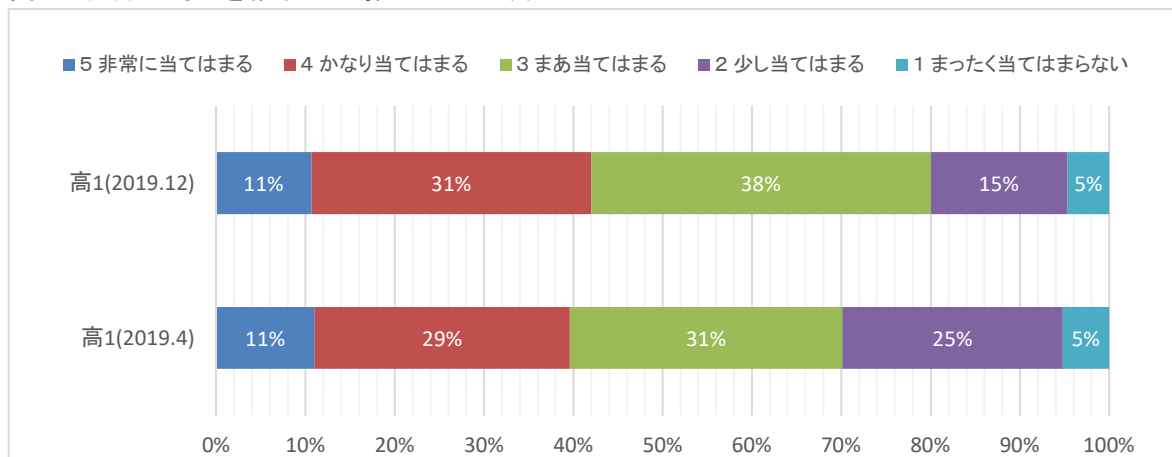
設問24 自分と異なる多様な人々と効果的にしごとができる



4 情報を発信する力

情報を発信する力に関しては、本校賞向項目25,26,27が該当し、4月と12月の比較では肯定的回答が8%増加した。項目別にみると、設問26「相手の考えや立場を理解し、尊重することができる」については、4月、12月とそれぞれ88%、91%と高い割合を保っている。また、設問27「自分の考えを相手に理解してもらい、伝えることができる」は70%から80%と割合が大きく増加した。これは、グループのメンバー間の意思疎通もあるが、中間発表や領域別発表会など自分の言いたいことを伝えなければならない機会が多いことが理由としてあげられる。また、公的機関や民間企業の方々から話を聞き、さらにどんな研究をしたいのかなど説明の機会も情報発信力の育成につながっている。

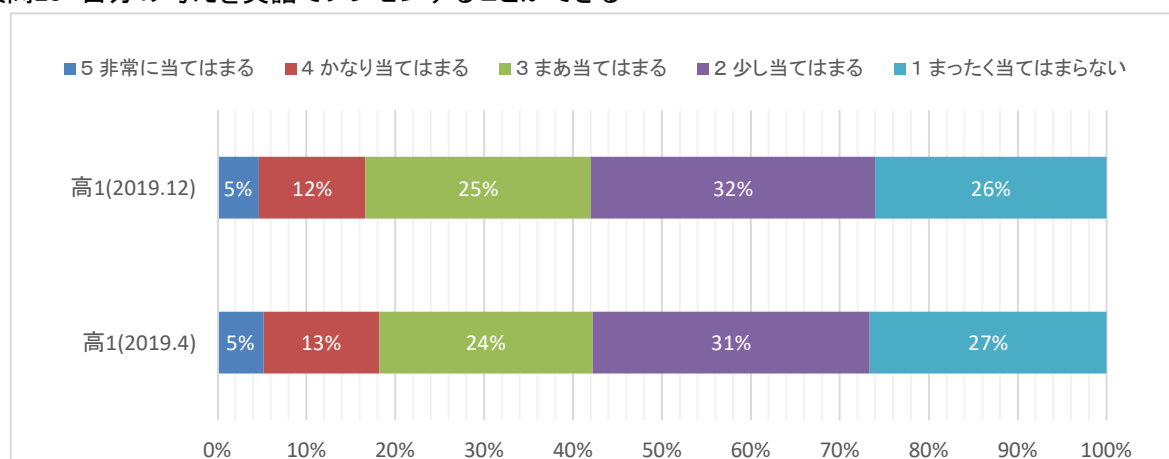
設問27 自分の考えを相手に理解してもらい、伝えることができる



5 英語で伝える力

英語で伝える力に関しては、本校質問項目28が該当し、4月と12月ともに40%となっている。これについては、設問28が「自分の考えを英語でプレゼンすることができる」となっており、プレゼンをする力のみを聞いていることも関係している。1年生は全員、CTPの授業で英語でのディベートを経験し、発表の仕方等ディベートにおける英語力をつけているが、同時にディベートでの英語の難しさを感じている者も多いことがうかがわれる。今後の対策として、英語科と連携を強くし、英語のプレゼンそのものの活動をもっと入れていくなどで改善を図る。

設問28 自分の考えを英語でプレゼンすることができる



6 グローバル社会に貢献する高い志

グローバル社会に貢献する高い志に関しては、本校質問項目32,39が該当し、4月と12月の比較では肯定的回答が7%増加した。項目別にみると、設問32「将来は地元地域や世界でグローバルに活躍したい」は、66%から60%へと減少してしまっただが、設問39「社会に貢献するため、大学で取り組みたい分野や課題が決まっている」は55%から75%へと20%の大幅な増加を見せている。設問32が減少してしまった理由は、1年生の総合的な学習の時間に行っている課題研究が地域課題研究となっており、佐野市のまちおこしを考えたり、地域の医療の問題を扱ったりと生徒の注目が地元地域の問題になっているからだと思われる。2年生では異文化研究となるので、今後グローバル社会に目を向けるようになると予想される。

設問39 社会に貢献するため、大学で取り組みたい分野や課題が決まっている

